

# 勝山市総合行政審議会（第14期第10回） 結果概要

開催日時：平成29年10月31日（火） 午後7時～午後9時

開催場所：勝山市民会館3階 第2・3・4会議室

出席者等：出席委員13名

説明者：商工観光部長、消防長、農林部長、教育部長、スポーツ局長、観光政策課長、消防署長、林業振興課長、教育総務課長、国体推進課長、生涯学習課長、ふるさと創生・移住課GL、史蹟整備課GL、学校教育課GL

事務局：総務部未来創造課

## 議 題

平成28年度勝山市政策基本目標管理外部評価について（グループごとの審議）

### 【Aグループ】 観光・まちづくり分野

#### 第1章 すべての市民の力を合わせた広く開かれたまちづくり

##### 1.2. 効率的・効果的な行財政の運営

###### 1.2.2. 公平・適正な税制運営等による歳入の確保 について

###### ●委員

- ・クラウドファンディングをはじめとした新たな財源確保方策の活用について、目標金額が達成されなかった場合、事業の実施はどうされるのか。

###### ○説明者（商工観光部長）

- ・平成28年度に実施したガバメントクラウドファンディングについては目標金額を達成しない場合でも事業を実施する。差額については市の一般財源を充てた。平成29年度については、君原健二ロードの整備と映画「ローカル線ガールズ」の制作にガバメントクラウドファンディングを活用予定である。

###### ●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

###### ●委員

- ・異議なし。

### 1 3. 多様な交流活動の推進

#### 1 3 3. 都市間交流（国内）の推進 について

##### ●委員

- ・国内及び県内自治体との多様な都市間交流の推進について、記載のある都市は姉妹都市になるのか。

##### ○説明者（ふるさと創生・移住課）

- ・姉妹都市ではない。金沢市については、北陸新幹線の開通をきっかけに交流を開始したが、現在は子ども同士の交流がメインになっている。小浜市については、小学生を中心に夏には小浜市へ冬には勝山市へといった相互に行き来する交流を年2回実施している。

##### ●委員

- ・交流事業等への参加人数を目標数値として設定しているが、子どもの人数は減少しているので、達成が困難にならないだろうか。

##### ○説明者（ふるさと創生・移住課）

- ・数値については平成27年度をベースにしている。おっしゃるとおり人口は減少しているが、児童に留まらず、多様な交流を図っていきたい。

##### ●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

##### ●委員

- ・異議なし。

#### 1 3 4. ふれあい市民との交流 について

##### ●委員

- ・ふれあい市民への登録に向けた勧誘強化について、ふれあい市民にはどういった働きかけをされているのか。

##### ○説明者（ふるさと創生・移住課）

- ・現在は年2回ルネッサンス便りを無料で送付し、広報については毎月一部の方には送料を負担いただいて送付し、勝山市の情報を随時提供している。

##### ●委員

- ・サウルコス福井の応援は継続しているのか。

##### ○説明者（ふるさと創生・移住課）

- ・サウルコス福井の勝山 ThanksDay の実施については、平成26・28・29年度に実施しているサウルコス福井の全ての試合においてスポンサーがついており、勝山 Day とするには、かなり早い段階から抑える必要があり調整できなかった年もあったと思われる。サウルコス福井には園児へのサッカー教室など地域に根付いた活動もしていただいております。そういった子どもが大きくなり、サッカーや関連事業に携わることは良いことだと思っておりますので、市としても継続していきたいと考えています。

●委員

- ・東京勝山会、関西勝山会等への情報提供や市施策等への協力依頼について、会ではどういった雰囲気なのか。

○説明者（ふるさと創生・移住課）

- ・会のみなさんは、ふるさと勝山を応援している想いが強い。会では勝山の状況を報告するとともにふるさと納税等の支援をお願いしている。また移住に関するパンフレットを配布し、本人や周りの方への働きかけをお願いしている。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

135. U・I ターンの推進 について

●委員

- ・市の支援を受けて転入した人の数について、U・I ターンをされて定住した方の実績は分かるのか。

○説明者（ふるさと創生・移住課）

- ・転入された中でU・I ターン者のみを把握することは難しい。把握できるのは、市が関わった方のみであるのでこういった指標になっている。U ターン者にはふるさとの魅力を内側から知っていただく。I ターン者には待機児童ゼロなどの子育て支援やウィンタースポーツの魅力、市内企業の良さなどをPRしながら定住につなげていきたいと考えている。

●委員

- ・全国的に U・I ターン政策が人気になっていると思うが、勝山はどういった位置にあるのか。

○説明者（商工観光部長）

- ・福島県や長野県が人気である。関東圏の方からすると、勝山は豪雪地帯であることが不利になっている。ただ、苦しい条件ではあるが、伸びしろはあると考えている。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

137. シティプロモーションの推進 について

●委員

- ・地域ブランド調査における勝山市の魅力度ランキングについて、この順位が上がったからといって、必ずしも勝山の魅力が上がったかは分からない。勝山にはインスタ映えする景色がたくさんあると思う。そういった情報はタグ付けすることにより全国に広まりやすい。写真を中心にアピールしていただきたい。

○説明者（観光政策課長）

・現在、市の国際交流員がInstagramを積極的に行っている。まず写真映えする平泉寺に特化したInstagramを開始し、日本語だけではなく英語でも発信する予定である。

●座長

・項目の評価について異議はないか。

●委員

・異議なし。

### 第3章 にぎわいと産業の振興、連携による持続可能なまちづくり

#### 3.4. 商工業の振興

##### 3.4.1. 活力ある商業経営の支援 について

●委員

・まちなかへの出店促進に向けた支援について、おもてなし商業エリア創出事業として助成した7店舗とはどういったところか。

○説明者（商工観光部長）

・ほとんどが飲食店である。観光客向けにランチ営業をするなど条件があるので、目安にしていただければ分かると思う。

●委員

・小売店や宿泊施設等におけるクレジットカードや電子マネー決済の導入促進について、この事業はどういった方を対象にしているのか。

○説明者（商工観光部長）

・外国人観光客向けが中心である。県内でもクレジットカード決済できない店舗が多いと聞く。将来のインバウンド対応を考え、また少しでも観光誘客へつながるよう導入を検討している。

●委員

・市内卸売業、小売業の事業所数について、目標達成に至らなかった要因は何か。

○説明者（商工観光部長）

・勝山商工会議所と連携し「かつやま創業塾」などにより起業する方への支援は行っているが、現在事業をされている方でも、高齢化等の影響により自分の代で閉める方も多と思われる。

●委員

・魅力ある商売であれば、事業を引き継ぐ方もいるかもしれない。2代目となるような若い世代が外に出ていかないような施策が大事だと思う。

○説明者（商工観光部長）

・おもてなし商業エリア創出事業にあわせて、大阪から中小企業診断士に来ていただき、フォローアップをしていただいている。主に事業再生に向けてアドバイスをしていただいている。U・Iターンについて、来年以降は定住にウエイトを置いて取り組んでいきたいと考えている。

●委員

- ・民間と連携していけるような仕組みづくりはされているのか。

○説明者（商工観光部長）

- ・現在、取り組んでいるふるさと回帰事業の中には、市内企業の人手不足に向けた事業として、市外へ出た学生や若者に対して行うインターンシップや PR、冊子作り等を支援する内容が盛り込まれている。市内企業の存続の支援にも力を入れていきたいと考えている。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

3 4 2. 地元企業への支援 について

●委員

- ・新しい産業への誘導について、勝山の新規工場誘致の状況はどうか。

○説明者（商工観光部長）

- ・企業誘致については毎年行っているが、ここ十数年は新しい企業の誘致ができていない。どちらかというとも既存の企業対策に力を入れていた。近年、市内の大きな企業が工場等を再配置している。それもあってか市内企業は深刻な人手不足の状態となっている。定住支援にしっかり取り組み、企業の人手についても充足できるようつなげていきたい。

●委員

- ・勝山市の将来の最低人口規模はどの程度を考えているのか。人口のデッドラインはあるのか。

○説明者（総務部長）

- ・地方創生総合戦略を立てる際に、将来人口シミュレーションはしたがデッドラインについては決めていない。

●委員

- ・守りたい人口規模をライン引きすると、目標を立てやすく定住促進に取り組みやすいと思う。

○説明者（観光政策課長）

- ・福井市を中心とした連携中枢都市圏形成構想というものがあるが、その中では嶺北から人の流出を防ぐという目標があり、例えば勝山市に住まなくても、福井市など嶺北に留めるという考え方である。

●委員

- ・既存企業を守ることも大切であるが、考え方によれば新しい企業が入れないということになり、それが後々悪い影響にならないだろうか。既存企業にも魅力ある企業はもちろんあるが、そうでないところもあるのではないか。

○説明者（商工観光部長）

- ・市の施策に関わらず、マーケットで魅力がない企業は消えていっている。産業政策はおまけのようなものであり、決めるのはマーケットであると思う。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

3 4 3. 起業家の育成・支援 について

●委員

- ・市の積極的支援による企業者数について、実績 14 人とあるのはどこか。

○説明者（商工観光部長）

- ・平成 23 年度からの累計数値なので、平成 28 年度は 2 人であるが、どちらも飲食店である。

●委員

- ・大野でやっているような創業支援は勝山で行っているのか。

○説明者（商工観光部長）

- ・行っている。平成 28 年度は記載にある通り、かつやま創業塾は 5 回にわたって開催し、13 人が受講、4 名が起業に至っている。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

3 4 4. ソーシャルビジネスへの展開支援 について

●委員

- ・医療、介護、福祉等の連携による新たなビジネス構築に向けた取組みへの支援について、ケアブレイクかっちゃまの事業は郊外の方も利用されているのか。特定の地区のみでされているのか。

○説明者（商工観光部長）

- ・終活フェアについては市内全域を対象に行っているし、サンプラザでのお買い物支援についても市内全域に効果はあると思われる。

●委員

- ・お買い物支援については、お金の管理も含めて支援しているのか。

○説明者（商工観光部長）

- ・社会福祉協議会が中心となって、お金の管理も扱っている。

●委員

- ・お金については後継人のこともあり、難しい問題である。いずれにしても総合的に取り組んでいく必要があると思う。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

345. 企業立地・誘致の推進 について

●委員

- ・企業立地の推進について、市長によるトップセールスとはどういった企業に対して行ったのか。

○説明者（水上部長）

- ・マイラン EPD や大阪特殊合金など市内にある企業の親会社へトップセールスを行った。定期的なコンタクトが大事だと考えている。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 35. 観光の産業化

351. 観光資源の活用による経済の活性化 について

●委員

- ・中心市街地への入込客数について、前年より2万人減少しているがなぜか。

○説明者（商工観光部長）

- ・ゆめお一れ勝山の入館者数が減ったことに加え、市全体の観光客も減少した。夏季オリンピックが開催される年は、観光客が減るといったデータもある。平成27年度は新幹線が開通した効果から特に多かったということもある。また、観光客の恐竜の森への滞在時間が長くなっている。まちなかへ寄る時間がとれず客が減る要因の一つになったと思われる。

●委員

- ・恐竜博物館には年間多くの人が集まっているが、まちなかへの誘客はなかなか進んでいないのか。

○説明者（観光政策課長）

- ・近年、市内でランチのできる店舗が13軒できた。以前は恐竜博物館付近で食事できる場所があまりなく、ランチ難民が多かった。花月楼の2階では団体客の対応ができる。また、現在ジオターミナルを建設中であるが、観光案内機能としての食や遊びなどのコンシェルジュ機能を持ち、奥越や県内の周遊促進も狙っている。

●委員

- ・県外から福井へ観光に来た場合、恐竜博物館と越前海岸方面へ両方行きたくても、距離や時間的な問題から難しい。ましてや市街地へ行く余裕はなかなかとれない。

○説明者（観光政策課長）

・現在の課題は宿泊施設が少ないということである。市内で宿泊できなくても福井市方面で宿泊いただくなど、周遊拠点となればよいと考えている。

●座長

・項目の評価について異議はないか。

●委員

・異議なし。

### 3 5 2. 環境整備による周遊性・滞在性の推進 について

●委員

・温泉センター水芭蕉の入込客数について、なかなか目標値に達しないのはなぜか。

○説明者（観光政策課長）

・水芭蕉は近隣の方の利用は多いが、大野や永平寺の公衆浴場施設へ人が流れつつある。昨年休業したことも要因となっているようだ。今後は観光客を対象としたリノベーションを考えている。

●委員

・リゾートウェディング等に活用できる勝山ニューホテルの施設整備と維持管理について、勝山ニューホテルのリゾートウェディングに活用とは、どのようなことを計画されているのか。

○説明者（商工観光部長）

・勝山ニューホテルをリゾート化していくのではなく、改修するための一つの手段として披露宴をできるような事業を計画した。

●委員

・現在は様々なところで挙式をされていると聞く。写真があるとイメージしやすく PR には写真を活用していただきたい。

●座長

・項目の評価について異議はないか。

●委員

・異議なし。

### 3 5 3. 観光営業の強化による誘客の促進 について

●委員

・年間の観光入込客数について、数値が未達成となっているが、こういった分野が影響しているのか。

○説明者（商工観光部長）

・恐竜博物館への来館者数がまともに影響している。第 2 恐竜博物館の建設など抜本的な対策が必要だと思う。

●委員

・人数よりも観光消費額を増やすことにウエイトを置いて取り組んでいただきたい。



●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

354. インバウンド観光の推進 について

●委員

- ・海外の旅行者やマスコミへの積極的な営業活動の推進について、プロモーション先についてはテレビ関係だけでなく、YouTuber へコンタクトをとり PR に協力いただくという方法も有効ではないか。

○説明者（商工観光部長）

- ・台湾の YouTuber で福井に思い入れのある方がおり、県としてもコンタクトを取ろうとしているようだ。

●委員

- ・台湾と中国の YouTuber がタイアップしてお互いの国を PR するのもおもしろいと思う。全世界へ発信する影響力は大きいと思う。

○説明者（商工観光部長）

- ・ご意見を参考にしたい。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

355. 広域観光の展開による認知度向上 について

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 【Bグループ】 農林業・建設分野

### 第2章 誰もが安心して暮らせる人にやさしいすこやかなまちづくり

#### 2.6. 安全安心に暮らせるまちの実現

##### 2.6.1. 消防体制の充実 について

###### ●委員

- ・数値目標が未達成となっている消防団員の実員数について、お伺いしたい。

###### ○説明者（消防長）

- ・北谷地区は人員確保が非常に難しい。また、遅羽地区、北郷地区が現在、人員定数を満たしていない状況である。分団で団員の確保が難しいとの話があった場合、消防署から区長会に協力依頼を行い確保に努めたい。

###### ●委員

- ・北谷地区は確かに人員確保が難しいと思う。例えば、隣接する分団の人員定数を増やすことはできないか。

###### ○説明者（消防長）

- ・条例で各分団の人員定数を定めている。3分団は人員定数20名だったが、現在は21名と変更している。1分団も人員定数を1名増員してもよいとの話がある。将来的に複数の分団で人員確保が難しい状況となれば、分団の再編を検討しなければならないと考えている。

###### ●委員

- ・今年の6月25日に開催された総合防災訓練や消防団の訓練参加等について、連携がうまくとれていないのではないか。

###### ○説明者（消防長）

- ・これまでは水防訓練のみ行っていたが、近年は総合防災訓練に変更し、その一つの訓練として水防訓練を行っている。水防訓練に参加する分団、避難誘導訓練に参加する分団に分かれているが、訓練参加人数は、総務課危機管理防災室と消防署で打ち合わせをし、消防団の幹部会に諮り各分団がどの訓練に参加するか訓練参加人数を決めている。

###### ●委員

- ・今年の総合防災訓練で行われた各種訓練は、訓練に関連性がなくばらばらに行われていたが、関連性のある訓練としたらどうか。防災は専門知識のある消防署が統轄した方がよいのではないか。

###### ○説明者（消防長）

- ・大規模災害が起きた場合、消防署は他県から援助にきた消防関係の対応さえ思いどおりになくなるだろう。市役所全体が動かなければならなくなる。総合防災訓練は大規模災害を想定して行っている。

###### ●委員

- ・台風21号の被害はどうだったのか。

○説明者（消防長）

- ・台風 21 号は倒木、看板の落下など風による被害があった。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

#### 2 6 2. 救急体制の充実 について

○説明者（消防署長）

- ・現在、来年の国体開催に向け市職員や国体開催関係者に対する普通救命講習に力を入れている。

○説明者（消防長）

- ・救命講習に救命入門コースを設け、中学生の講習に力を入れている。倒れている人がいた場合、心臓マッサージを行うのが当たり前の状況を目指すため、小さい時から取り組んでいる。また、救命の質を維持するため、救急救命士を指導する指導救命士を養成している。3名の指導救命士の養成を考えている。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 第3章 にぎわいと産業の振興、連携による持続可能なまちづくり

#### 3 1. 農業の振興

##### 3 1 1. 集落を基盤に考える地域の事業の振興 について

●委員

- ・新たな担い手への支援について実績はどうか。

○説明者（農林部長）

- ・集落営農組織の法人化として、荒土町松田区、鹿谷町北西俣地区の支援を行った。また、高島区の集落営農組織設立の支援を行った。

●委員

- ・新規就農の支援はどうか。

○説明者（農林部長）

- ・新規就農 2 名に対して支援を行っている。年間 150 万円の支援を 5 年間行う。

●委員

- ・勝山市の場合、兼業農家が 100%か。

○説明者（農林部長）

- ・ 専業の認定農業者及び組織が 59 ある。

●委員

- ・ 新しいコメの品種いちほまれが開発され、売れているようだが、いちほまれを作ればいいのではないか。

○説明者（農林部長）

- ・ いちほまれは現在、限定された作付が行われているので、誰もが作れる状況ではない。

○説明者（農林部長）

- ・ 北谷地区において、行者にんにくを新しい特産品として栽培し始めたので写真を回覧したい。普段目にするにんにくではなく葉っぱの方になる。

●委員

- ・ 販売はまだできないのか。

○説明者（農林部長）

- ・ 葉が大きくなるのに 5～6 年かかるので、まだ販売できる状況にない。

●委員

- ・ にんにくの香りはするのか。

●委員

- ・ にんにくの香りがする。北海道で作られている。

●座長

- ・ 項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・ 異議なし。

### 3 1 2. 循環型農業を基軸とした勝山型農業の推進 について

●委員

- ・ 全国で田舎暮らし体験事業は行われており、その中で勝山市に来てもらうための強み、勝山ならではの恐竜やジオといった魅力を絡めていくと違いがでるのではと思う。恐竜のようなひょうたんを作っているが、とても勝山らしい。これからできる道の駅や恐竜博物館に行くという人や勝山に来て就農したいと考えている人には、ターゲットとする客層を見るきっかけにはなるのではと思う。観光という意味ではなく、こういうところに集荷先がありますよというプログラム設定により、経営の目途の一つになれば事業の意味合いがでるのかなと思う。

○説明者（農林部長）

- ・ 恐竜のひょうたんについても体験事業の受入を行っている。昨今目立つのは、北陸農政局の新採用職員の参加がある。その他、親子や学生の参加もある。

●委員

- ・ リピーターも多いと思うが、最初にしっかり魅力が伝わるものがあればリピーターは期待ができると思う。

●委員

- ・道の駅オープンに向けて特産品の開発が必要ではないか。

○説明者（農林部長）

- ・道の駅は恐竜博物館に向かう観光客が通る場所に建設する。地域の農作物を年中出せるようにしたいが、米作中心の勝山では難しい。視察した道の駅では果物を売っていたが、米作中心の勝山では直ぐには対応できない。

●委員

- ・特産品として現在、勝山で作っている物と全然違うものを作るのは難しいのだと思う。カニミュージアムがある道の駅では、ご飯を100円で買い、好きなものを選んで丼にして食べる。芋の煮っ転がしがあってもお土産として買って帰る人はなかなかいないと思うが、その場でトッピングして、ワラビでもゼンマイでもあれば山菜丼にして食べるというようなサービスを考えた方がいいのではないか。

●委員

- ・現物を売るより加工した方が利益率は高くなる。加工所の充実が本当に重要だと思う。加工所を充実させて色々な団体が入るなら区分けして、いくつも加工所が整備されているくらいの規模が必要だと思う。農産物を売るよりもお金になり、6次産業として農家さんの張合いにもなる。

●委員

- ・売れないと思いつむのではなく、やってみて売れなかったら次を考えるという試行錯誤はどこでも必要であり、やってみるべきだと思う。6次産業の雇用も生まれるのではないかと思う。ひとつの解決策ではないか。主眼を置くところがあまりにも月並みになり過ぎて、同じ道の駅がいっぱいできる結果になりかねないのではないか。

●委員

- ・関西の知人がアウトドアサークルをやっていてメンバーが約3千人いる。そのサークルで人気があるのが収穫体験だと聞いた。北陸に来たとき白山に連れて行き、帰りに白峰の雪だるまカフェに寄ると20代、30代の女性が喜んで帰っていく。都会の人は僕らが思わないところに欲求がある。PRがうまくできれば面白いことができると思う。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

3 1 3. 経営効率化に資する生産基盤・農業用施設の適正な機能の確保 について

●委員

- ・勝山大用水の水利権の協議とはどういうことか。

○説明者（農林部長）

- ・水利権には慣行水利権と許可水利権がある。慣行水利権は昔から水を利用していた権利、許可水利権は国土交通省に対し許可あるいはお金で買う水利権である。勝山市内はほとんどが慣

行水利権であり、国から慣行を許可に切り替えるよう指導を受けている。大用水の慣行水利権は農業のための水利権だったが、現在は、農業用は少なくなり生活用水、特に冬の消雪に使われているため国と協議を行っている。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 3 1 4. 鳥獣害防止対策の推進 について

●委員

- ・すでに補助金を活用して整備したところについては、再度、補助金は活用できないと思うが材料代の支援はできないのか。

○説明者（林業振興課長）

- ・耐用年数が過ぎればワイヤーメッシュ柵に変えることができる。それまでの期間については、市がネット用の補修資材を持っていることから、それで対応願いたい。

●委員

- ・猪の駆除数は年々増えているが被害面積も増えている。勝山市に猪がどれくらいいるのかについてだが、滋賀大学が調べたデータによると1平方キロあたり約10頭いるとのことである。勝山市の山林面積が約200平方キロだから2,000頭ぐらいいるのではないかと。1/4の駆除で現状維持として、年間500頭駆除できなければ増えていくことになる。現在の駆除数は400頭であり、もう少しがんばれば何とかなる気がする。

○説明者（林業振興課長）

- ・山は続いており、猪の数が減少しないのは、勝山市が山に近いという地形の影響もあるのではないかと思う。

●委員

- ・大野市は一時期カラスの駆除に力を入れていた。一時は減ったものの、知らない間に増えており、勝山から来ているのではないかと大野市の人と話をしていた時に言われたことがある。大野市は100頭も駆除してないだろうが、もうひと踏ん張りできるよう各集落に話をしたい。

●委員

- ・猟友会の人も少なくなっているのではないかと。

●委員

- ・市からの補助もあり、駆除できる人の人数はすごく増えている。全員猟友会に入っている訳ではないが、猟友会は現在38名である。

○説明者（林業振興課長）

- ・銃の免許を持っている人は少ない。他は罟の免許を持っている。

●委員

- ・猪の止め刺しについて、今年は半分以上電気でやっている。銃のような許可は必要ないが、雨の日の感電には気を付けなければならない。被害面積を1%以内にするには大変難しいと

思う。

●委員

- ・ 獣肉解体処理施設計画はどのような状況か。

○説明者（林業振興課長）

- ・ 嶺南には施設があるが嶺北にもということで県が中心となって会議を行ったが、位置や金額のことで現在は話しが進んでいない。平成 30 年度に再度、会議を開催したいと聞いている。

●委員

- ・ 今年、研修で嶺南の施設を見てきた。年間 9,000 頭を焼却処分している。食肉用にできるのは 2~300 頭とのことである。銃の玉が入っていたり、血抜きができていない場合は食肉として使用できない。嶺南の施設は 5,000 頭の処理能力があるが、休みなしで焼却を行わないと追いつかないと聞いた。

●委員

- ・ 焼却するのに経費がかかるのではないか。

○説明者（林業振興課長）

- ・ 勝山市の場合、冷凍で保管しておき、委託先に取りに来てもらい焼却している。大きいもので一頭何万もかかる。

●座長

- ・ 項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・ 異議なし。

## 3 2. 林業の振興

### 3 2 1. 持続的な森林管理の推進 について

●委員

- ・ 大野市にバイオマス発電施設ができたことから、間伐材の処理が可能となり森林整備が進むことはいいことだと思う。森林組合へ補助を行い、機械化が進んでいるが、林道の整備も同時に行わないと間伐材を運びだせない。林道・作業道の舗装・改良工事施工延長の目標が未達成となっている。予算的なものだと思うが、そういう所に予算を優先的に持っていくといいのではないか。

○説明者（林業振興課長）

- ・ 目標未達成については、県の補助が申請通りに採択されなかったことに起因するが、内容としては新たな作業道を開設するのではなく、既設の工事である。現在の課題は、森林の境界が分かりにくくなっていることであり、地元の方や森林組合と境界を明確にしながら間伐を進めている。

●委員

- ・ 境界が分からないものは手をつけないのか。

○説明者（林業振興課長）

- ・分からなくなる前に対応するところもあるが、本当に分からないところについては入れないところもある。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 3 2 2. 多様な活動主体による森林活用 について

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 3 3. 内水面漁業の振興

### 3 3 1. 水産資源の保護・活用 について

●委員

- ・川鵜の被害があることから、漁協では花火により追っ払ったりしているが、捕獲をしなければ被害が減らないのではないか。釣り客からあそこは釣れないといった噂が広まりつつあるのではないかとの話がある。他県の事例など調べて欲しい。

○説明者（林業振興課長）

- ・承知した。

●委員

- ・稚鮎の放流量は漁協と打合せをして決めているのか。

○説明者（農林部長）

- ・市からも補助を行っているが、漁協は7,000kgを目標としている。

○説明者（未来創造課長）

- ・鮎は現在、釣りの期間しか食べられない。建設する道の駅等で年間通して食べられるように検討を進めている。道の駅は九頭竜川沿いを予定していることから、九頭竜川に下りる親水空間の整備も検討している。また、商標登録も申請しており鮎のブランド化に取り組んでいる。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。



## 【Cグループ】 教育・福祉分野

### 第1章 すべての市民の力を合わせた広く開かれたまちづくり

#### 1.3. 多様な交流活動の推進

##### 1.3.2. 国際交流の推進 について

- 座長
  - ・項目の評価について異議はないか。
- 委員
  - ・異議なし。

#### 1.5. 各地区等の地域力向上の実現

##### 1.5.1. 市民が主体となった地域力の向上 について

- 座長
  - ・項目の評価について異議はないか。
- 委員
  - ・異議なし。

### 第5章 豊かな人間性とたくましさをもったひとを育むまちづくり

#### 5.1. 望ましい教育の実現

##### 5.1.1. 教育環境の整備・充実 について

- 委員
  - ・中学校の再編方針決定と対応について、平成30年度には検討委員会を立ち上げるとのことだが、小学校の問題も含め、統廃合を行うことは個人的にはやむを得ないことだと思っている。突然、方針を示すとどうしても拒否反応がでることもあり、できるだけ早めにメリット・デメリットを含め、今後の方針を地域に浸透させていくよう取り組んでいただきたい。
- 説明者（教育部長）
  - ・市長と語る会においても現状をお示ししているが、平成30年度に検討委員会を立ち上げ、平成31年度に方針を決定することになっている。並行してそのような意見も出てくると思う。
- 委員
  - ・施策指標 各小中学校の授業日数に占めるICT機器を活用した日数の割合について、70%という数値は、市内全小中学校の平均値ということなのか。その場合、学校ごとに数値の開きがあるのか。

○説明者（学校教育課）

・数値についてはおっしゃるとおりである。学校ごとの取組み状況には差があまりなく、教科ごとに差が出る。たとえば体育は外での授業が多いため、割合は少ない。

●座長

・項目の評価について異議はないか。

●委員

・異議なし。

## 5 1 2. 心豊かでたくましい児童・生徒を育てる学校教育の充実 について

●委員（代理）

・基礎的・基本的な知識と技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成、一人ひとりに応じた教育の充実につながる授業の改善について、英語教育・環境教育を中心とした研究実践の取組みと教育効果はたいへんすばらしく、達成度も高いと感じている。ただし、行政を含んだ教員の働き方については、夜遅くまでの勤務の常態化など是正の必要性を感じる。国の「働き方改革」推進にあわせ、教育現場においても「ノー残業デー」等の取組みがなされているが、十分には浸透していないと感じている。現実的かつ抜本的な「働き方改革」に取り組み、勝山の教育を明るい未来へとつなげていただきたい。

○説明者（学校教育課）

・おっしゃるとおりであり、教員の働き方の改革は懸念材料となっている。現在、まずは中学校の勤務体制改善に取り組んでいるところであり、平成30年度には平日の部活動を1日休みにし、余暇として活用してもらうようにできないか考えている。小学校については児童の個別対応（ケース会議）を迫られることも多いが、毎日少しでも早く帰宅できるよう教頭会と連携して、対策を模索しているところである。

●委員

・そういった方策を平成30年度から具体的に取り入れていくのであれば、努力義務とするのではなく一律に実施するという姿勢が大切だと思う。

●委員

・全国から高く評価された英語教育強化地域拠点事業における勝山スタイルとはどういったものか。

○説明者（学校教育課）

・本市の英語授業は、教員2名体制により実施している。基本は担任が主として進行し、英語担当の支援員（日本人）が補助する形である。担任の中には英語の免許を持っていない者もあり、自身が支援員に学びながら、英語の授業を進めている。他の学校の失敗例として、ALTが授業を進めてしまい、担任が裏でみているだけというケースがあった。そうならないよう、この勝山スタイルによって授業を行っている。

●委員

・教育成果が向上する学習環境の充実について、いじめの未然防止や早期解決策として具体的にはどのような対策を講じているのか。

○説明者（学校教育課）

- ・当然、きめ細かな対応を心掛けており、定期的なアンケート調査も実施している。中学生については「生活ノート」をつけることとしており、記載内容を担任の教師がチェックしている。平成28年度は実際に3件の発見につながった。一般的には、いじめを最も把握しやすい方策はアンケート調査だと言われている。本市の場合には生徒からの直接的な訴えかけが最も多い。これはそういった教師と生徒との関係づくりがうまくできているということにもつながっており、今後も面談等の対策を積極的に講じたい。ただし、近年はSNSによるいじめの把握に苦慮している。

●委員

- ・不登校への対応はどうしているのか。

○説明者（学校教育課）

- ・生徒が2日連続して休んだ場合には、必ず学校がご家庭に連絡することとしている。3日続く場合は学校教育課に情報が上がってくるシステムとなっている。休み始めの対応が肝心である。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

5 1 3. 「生きる力」を育む市民活動の展開

●委員

- ・地域行事に子どもが参加できる環境づくりについて、公民館を中心とした子どもが参加できる活動と集落単位での子ども活動の2パターンがあると思う。公民館事業については、館長や主事が一生懸命取り組んでくれているが、今後、公民館の嘱託化が進んでもその取組みが弱まらないようにしていただきたい。

○説明者（生涯学習課長）

- ・今年度から、公民館職員の嘱託化を一部開始しているところだが、採用された職員は非常に熱心に取り組んでいる。特に地域とのかかわり合いの部分については頑張ってもらっているところだが、公民館業務としてどこまで行えばいいのかという線引きも難しいところである。市では集落単位の子どもの活動にも支援を行っており、青少年市民会議の広報誌等を通じて、周知を行っているところである。

●委員

- ・各地区の見守り活動については、地域に温度差があると思う。非常によい取組みだが、何の組織に所属して行っているのかという点も不明確である。区長会や地域の子どもの会等に対し、行政側からも活動への協力をお願いしていただけるとありがたい。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 5.2. 歴史遺産を活かしたまちづくりの実現

### 5.2.1. 国史跡白山平泉寺旧境内を中核にすえたまちづくり について

●委員（代理）

- ・夏に平泉寺区と市が協力して実施した白山平泉寺開山 1300 年祭記念イベントは、人・自然・文化・環境などあらゆる意味での「豊かさ」を感じることができるイベントとして、訪れた方々に印象付けることができたと感じている。

今後、歴史遺産を活かした観光のまちとして発展していくためには、企業投資や市民を巻き込んだ広報活動が必要不可欠だと思うが、歴史遺産と自然遺産を結びつけた観光都市としての未来に大いに期待したい。

○説明者（教育部長）

- ・記念イベントには本当にたくさんの方に来ていただいた。日本にはこんな観光地があったのかという声も多くいただいた。歴史的なバックボーンもしっかりしており、平泉寺区も活動に熱心であることから、観光部門としっかり連携してPRしていきたい。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 5.2.2. 歴史遺産の保護・活用の推進 について

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

## 5.3. いきいきと学ぶ生涯学習の推進

### 5.3.1. 学習機会と施設の充実 について

●委員

- ・施策指標 公民館での学級・講座への参加者数について、公民館学級の参加者数は目標に達しておらず、集客方法が課題であるとのことだが、具体的にどういう状況なのか。

○説明者（生涯学習課長）

- ・公民館だよりやチラシの配布による募集がメインであるが、それだけではなかなか人が集まらない。老人会の会議等とセットにした事業実施や各種団体のニーズに対応した企画を実施するなど工夫して開催しているところである。

●委員

- ・公民館での学級、講座の充実について、各公民館の学級は年間を通して計画しているのか。

○説明者（生涯学習課長）

- ・正直なところ、各公民館により異なる。年間を通してシリーズを企画する場合とニーズに応じて、その都度企画している場合とがある。ある公民館ではジオパークにかかる事業の一環として、地域の方自身に地域の魅力に気づいてもらうシリーズを年間を通じて行っている。

●委員

- ・集客の状況はどうか。年間を通して計画した場合の方が良いのならば、そちらに統一した方が良い。

○説明者（生涯学習課長）

- ・各公民館の職員全員にしっかり企画を考えるよう要請している。状況についてはしっかり把握する。

●委員

- ・地域のニーズはどのように把握しているのか。

○説明者（生涯学習課長）

- ・たとえば、公民館を利用しているサークルの方に話を聞き、連携して開催するといった取り組みを行っている。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

5 3 2. 生涯学習の推進に向けた人材の育成 について

●委員

- ・勝山市青年団体連絡会や勝山市壮年連絡協議会など、各種団体が行う事業への支援について、若者の交流イベントは一昔前まではとても盛んであり、現在も継続して続けていくことは良いと思う。市民文化祭には参加をしていないのか。

○説明者（教育部長）

- ・かつては青年祭というものがあつた。現在も支援はしているが、人数の大幅な減少等もあり、現在は参加していない。

●委員

- ・施策指標 生涯学習人材バンク利用件数について、目標件数に達していないが、PR が足りていないのではないかと。各公民館を通じた周知以外にも、勝山駅など人が多く集まる場所を活用して積極的に情報発信していただきたい。

○説明者（生涯学習課長）

- ・人材バンクの活用については、区長連合会にも出向き説明を行ったが、思うほど地域から反応が無かった。登録いただいている人材は 54 名であり、講師の方自身で PR してくださることもある。

- 委員
  - ・地域の区長会で詳細を説明するのが効果的だと思う。
- 説明者（生涯学習課長）
  - ・提案をいただきありがたい。ぜひとも検討したい。
- 座長
  - ・項目の評価について異議はないか。
- 委員
  - ・異議なし。

### 5 3 3. 自然体験学習・ジオパーク学習の推進 について

- 座長
  - ・項目の評価について異議はないか。
- 委員
  - ・異議なし。

### 5 3 4. 図書館機能の充実 について

- 委員
  - ・施策指標 市立図書館への年間入館者数について、取組内容をみると工夫を凝らして色々なことを行っていると思う。目標の達成には至っていないが、数値設定も高めなのではないか。設定の根拠を教えてほしい。
- 説明者（生涯学習課長）
  - ・平成 27 年度の実績をベースにして、新たな目標設定を行った。平成 28 年度の実績値が下落した点だが、システム入替のため 10 日程度の休館日を設けたことと冬季の雪の影響があったことによると考えている。目標の達成に努めたい。
- 座長
  - ・項目の評価について異議はないか。
- 委員
  - ・異議なし。

## 5 4. 豊かな心と感性を育む文化芸術の振興

### 5 4 1. 伝統文化の保存継承 について

- 座長
  - ・項目の評価について異議はないか。
- 委員
  - ・異議なし。

#### 5 4 2. 文化芸術活動の充実 について

●委員

- ・国・県文化芸術事業の活用について、有名人を招いた企画を実施することは良いと思うが、どういったテーマ設定により選考しているのか。

○説明者（生涯学習課長）

- ・実情としては人選が先であり、決定後にテーマをイベントにふさわしいものにしていく形である。聞いて下さる方々に元気ややる気を与えることをメインに考えている。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 5 5. いきいきと輝くスポーツの振興

#### 5 5 1. 競技スポーツと生涯スポーツの推進 について

●委員

- ・勝山恐竜クロカンマラソン大会充実による対外的な勝山市のPRについて、イベント自体は十分浸透していると思う。平成28年度は前年度より参加者が減少したようだが、原因は参加費の値上げにあるのか。

○説明者（スポーツ局長）

- ・全国の他の大会と比較し、福井県の大会は参加費が特に安価であることから、参加費を上げることとした。減少の一番の原因について、通常のマラソンと比べ、クロカンマラソンのコースが過酷であることが挙げられる。特に、20kmと10kmの参加者（リピーター）が年々減少しており、対応が必要である。辛いというイメージを強くPRするのも1つの方策ではないかと思っている。

●委員

- ・おもてなしに特徴を設け、充実させるのもよいのではないか。

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

#### 5 5 2. 体育施設の整備・充実 について

●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

●委員

- ・異議なし。

### 5 5 3. 平成30年度国民体育大会の開催 について

#### ●委員

- ・国民体育大会の開催に向けた選手の強化と指導者の育成、ボランティアの養成について、ボランティアの募集についてはどれくらいの人数が必要なのか。

#### ○説明者（国体推進課長）

- ・当初、100人を想定していた。市内だけで応募していたわけではなく、県に募集した勝山市出身の方等も受け入れる形になっている。総数で現在140名に達している。人員配置については今後、検討していきたいと考えているが、この数くらいでいけるのではないかと考えている。

#### ●座長

- ・項目の評価について異議はないか。

#### ●委員

- ・異議なし。